

2023年度（2024年3月期）
第3四半期 決算補足説明資料
(第3四半期決算及び通期連結業績予想修正)

2024年2月7日

阪急阪神ホールディングス株式会社

9042 <https://www.hankyu-hanshin.co.jp/>

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により予想と大きく異なる場合があります。

I . 2023年度（2024年3月期）第3四半期決算

連結損益比較表 (サマリー)

	2023年度3Q末	2022年度末	比較増減	
連結子会社	106社	99社	+7社	増加：8社 減少：1社
持分法適用関連会社	13社	10社	+3社	増加：3社
合計	119社	109社	+10社	

(単位：百万円)

	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減	増減率	主な増減要因
営業収益	736,387	716,444	+19,943	+2.8%	
営業利益 (事業利益)	90,533 (91,761)	74,510 (74,510)	+16,023 (+17,250)	+21.5% (+23.2%)	5ページ参照
営業外収益	14,225	10,379	+3,845		持分法による投資利益 +3,177
営業外費用	9,945	8,268	+1,677		支払利息 +1,542
経常利益	94,812	76,621	+18,191	+23.7%	
特別利益	2,117	4,937	△2,819		投資有価証券売却益 △1,898
特別損失	2,596	3,184	△588		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	62,810	51,051	+11,758	+23.0%	
(参考)					
減価償却費	46,117	46,034	+82		
金融収支 (A) - (B)	△6,339	△5,241	△1,097		
受取利息及び配当金 (A)	1,527	1,082	+444		
支払利息 (B)	7,866	6,324	+1,542		

事業利益について

- ◆ 2024年3月期より、当社グループの新たな経営指標として、営業利益に海外事業投資に伴う持分法投資損益を加えた「事業利益」を導入する。
- ◆ これにより、海外事業（不動産事業等）の成長に向けた取組の進捗状況を正確に示していく。

$$\text{事業利益} = \text{営業利益} + \text{海外事業投資（不動産事業等）に伴う持分法投資損益（営業外損益）}$$

◆ 全社事業利益

(単位：百万円)

	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減	増減率
営業収益	736,387	716,444	+19,943	+2.8%
営業利益 (①)	90,533	74,510	+16,023	+21.5%
海外事業投資に伴う 持分法投資損益 (②)	1,227	-	+1,227	
事業利益 (= ①+②)	91,761	74,510	+17,250	+23.2%

(注) 2022年度3Q累計は海外事業に係る持分法適用関連会社が存在していなかったため、「事業利益 = 営業利益」

セグメント別営業成績（サマリー）

【当期業績のポイント】

旅行事業・国際輸送事業において前年度に一時的な需要に対応したことによる反動があるものの、不動産事業においてホテルの宿泊需要が回復したことや、都市交通事業において旅客数に一定の回復がみられたこと、またエンタテインメント事業において阪神タイガースがリーグ優勝および日本シリーズ制覇を遂げるなど、スポーツ事業が好調に推移したこと等により、増収・増益

（単位：百万円）

	都市交通	不動産	エンタテインメント	情報・通信	旅行	国際輸送	その他	調整額	連結
営業収益									
2023年度3Q累計	151,884	218,381	66,189	44,033	169,667	75,374	37,727	△26,870	736,387
2022年度3Q累計	137,855	197,476	56,618	41,109	143,685	129,414	36,335	△26,050	716,444
比較増減	+14,029	+20,904	+9,570	+2,923	+25,981	△54,039	+1,392	△819	+19,943
営業利益（事業利益）									
2023年度3Q累計	28,848	35,373 (36,600)	15,938	3,282	8,339	732	1,651	△3,632	90,533 (91,761)
2022年度3Q累計	18,453	19,490 (19,490)	13,279	2,958	16,191	6,391	1,270	△3,525	74,510 (74,510)
比較増減	+10,395	+15,882 (+17,110)	+2,658	+323	△7,851	△5,659	+381	△107	+16,023 (+17,250)

（注）事業利益 = 営業利益 + 海外事業投資に伴う持分法投資損益【詳細は4ページ参照】（2023年度3Q累計の不動産事業以外は「事業利益 = 営業利益」）

都市交通セグメント

当期より鉄道駅バリアフリー料金[※]の収受を開始したことに加えて、鉄道事業・自動車事業とも旅客数に一定の回復がみられたこと等により、増収・増益

※同料金は将来にわたり全てバリアフリー設備の整備費等に充当

(単位：百万円)

	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	増減率
営業収益	151,884	137,855	+14,029	+10.2%
営業利益	28,848	18,453	+10,395	+56.3%

【業態別内訳】	営業収益			営業利益		
	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減
鉄道事業	1,108億円	1,003億円	+104億円	308億円	219億円	+89億円
自動車事業	324億円	295億円	+29億円	17億円	3億円	+15億円
流通事業	97億円	89億円	+8億円	12億円	8億円	+3億円
都市交通その他事業	50億円	44億円	+6億円	4億円	1億円	+2億円

(注) 別途、本社費・調整額があるため、上表の合算値とセグメント数値は一致しない。

《都市交通》 鉄道運輸成績

《阪急電鉄》

	収入				人員			
	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	増減率	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	45,414	40,649	+4,765	+11.7	213,367	201,683	+11,684	+5.8
定期	24,436	22,705	+1,730	+7.6	240,809	230,351	+10,457	+4.5
うち通勤	21,101	19,475	+1,625	+8.3	166,124	158,240	+7,883	+5.0
うち通学	3,334	3,230	+104	+3.2	74,684	72,110	+2,574	+3.6
合計	69,850	63,355	+6,495	+10.3	454,176	432,035	+22,141	+5.1

うち鉄道駅バリアフリー料金
約25億円

《阪神電気鉄道》

	収入				人員			
	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	増減率	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	16,788	14,373	+2,415	+16.8	86,104	76,840	+9,263	+12.1
定期	9,066	8,384	+681	+8.1	91,994	87,542	+4,452	+5.1
うち通勤	8,151	7,496	+654	+8.7	72,874	69,028	+3,845	+5.6
うち通学	914	887	+27	+3.1	19,120	18,513	+607	+3.3
合計	25,854	22,757	+3,097	+13.6	178,098	164,382	+13,716	+8.3

うち鉄道駅バリアフリー料金
約8億円

- (注) 1. 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示している。
 2. 阪急電鉄の定期外収入・人員には、P i T a P a 区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいる。
 3. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計である。
 4. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、2023年度より「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、運賃に同料金を加算して収受しており、定期外収入・定期収入（通学除く）には同料金を含んでいる。

不動産セグメント

ホテル事業においてインバウンドを中心に宿泊需要が回復したことや、賃貸事業において大阪梅田ツインタワーズ・サウスをはじめとする各物件が堅調に推移したこと、また海外不動産事業の規模拡大等により、増収・増益

(単位：百万円)

	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	増減率
営業収益	218,381	197,476	+ 20,904	+ 10.6%
営業利益 (事業利益)	35,373 (36,600)	19,490 (19,490)	+ 15,882 (+ 17,110)	+ 81.5% (+ 87.8%)

【業態別内訳】	営業収益			営業利益 (事業利益)		
	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減
賃貸事業	947億円	953億円	△6億円	302億円	257億円	+ 45億円
分譲事業等	954億円	904億円	+ 50億円	63億円	50億円	+ 13億円
海外不動産事業	63億円	13億円	+ 50億円	32億円 (44億円)	△0億円 (△0億円)	+ 32億円 (+ 45億円)
ホテル事業	470億円	311億円	+ 159億円	37億円	△37億円	+ 74億円

(注) 1. 別途、本社費・調整額があるため、上表の合算値とセグメント数値は一致しない。

2. 2023年度より「海外不動産事業」を独立した業態 (サブセグメント) として表示しており、比較期である2022年度3Q累計も組み替えて表示している。

3. 事業利益 = 営業利益 + 海外事業投資に伴う持分法投資損益 (2023年度3Q累計の海外不動産事業以外は「事業利益 = 営業利益」)

エンタテインメントセグメント

ステージ事業において宝塚歌劇の一部公演の中止があったものの、阪神タイガースがリーグ優勝および日本シリーズ制覇を遂げるなど、スポーツ事業が好調であったこと等により、増収・増益

	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	66,189	56,618	+9,570	+16.9%
営業利益	15,938	13,279	+2,658	+20.0%

【業態別内訳】	営業収益			営業利益		
	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減	2023年度 3Q累計	2022年度 3Q累計	比較増減
スポーツ事業	424億円	324億円	+100億円	139億円	95億円	+44億円
ステージ事業	238億円	242億円	△4億円	34億円	50億円	△16億円

(注) 別途、本社費・調整額があるため、上表の合算値とセグメント数値は一致しない。

情報・通信セグメント

情報サービス事業において受注が増加したこと等により、増収・増益

	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	44,033	41,109	+ 2,923	+ 7.1%
営業利益	3,282	2,958	+ 323	+ 10.9%

旅行セグメント

国内旅行が好調に推移したことや、復調途上である海外旅行の取扱が前年同期比では増加したこと等により増収となったものの、自治体の支援業務などの受注が減少したこと等により減益

	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	(単位：百万円) 増減率
営業収益	169,667	143,685	+ 25,981	+ 18.1%
営業利益	8,339	16,191	△7,851	△48.5%

国際輸送セグメント

航空・海上輸送ともに、需給の逼迫状況が緩和したことに加えて、顧客企業の在庫調整等によって東アジアを中心に物流需要が伸び悩んだこと等により、減収・減益

(単位：百万円)

	2023年度3Q累計	2022年度3Q累計	比較増減	増減率
営業収益	75,374	129,414	△54,039	△41.8%
営業利益	732	6,391	△5,659	△88.5%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

		2023年度3Q末	2022年度末	比較増減	主な増減要因																								
資産の部	流動資産	463,435	428,082	+ 35,352	販売土地及び建物 +49,167																								
	固定資産	2,524,551	2,437,328	+ 87,223	投資有価証券 +47,044 有形・無形固定資産 +37,653																								
	資産合計	2,987,987	2,865,410	+ 122,576																									
負債の部	流動負債	511,077	499,684	+ 11,392	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2023年度3Q末</th> <th>2022年度末</th> <th>比較増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借入金</td> <td>843,573</td> <td>822,595</td> <td>+ 20,977</td> </tr> <tr> <td>社債</td> <td>250,000</td> <td>260,000</td> <td>△10,000</td> </tr> <tr> <td>コア・シヤル・ハ・パ</td> <td>50,000</td> <td>10,000</td> <td>+40,000</td> </tr> <tr> <td>リース債務</td> <td>13,671</td> <td>13,755</td> <td>△83</td> </tr> <tr> <td>連結有利子負債</td> <td>1,157,244</td> <td>1,106,351</td> <td>+ 50,893</td> </tr> </tbody> </table>		2023年度3Q末	2022年度末	比較増減	借入金	843,573	822,595	+ 20,977	社債	250,000	260,000	△10,000	コア・シヤル・ハ・パ	50,000	10,000	+40,000	リース債務	13,671	13,755	△83	連結有利子負債	1,157,244	1,106,351	+ 50,893
		2023年度3Q末	2022年度末	比較増減																									
	借入金	843,573	822,595	+ 20,977																									
社債	250,000	260,000	△10,000																										
コア・シヤル・ハ・パ	50,000	10,000	+40,000																										
リース債務	13,671	13,755	△83																										
連結有利子負債	1,157,244	1,106,351	+ 50,893																										
固定負債	1,417,005	1,384,785	+ 32,220																										
負債合計	1,928,083	1,884,470	+ 43,613																										
純資産の部	株主資本	926,165	878,110	+ 48,055	親会社株主に帰属する四半期純利益 +62,810 支払配当 △12,113																								
	その他の包括利益累計額	41,526	28,692	+ 12,833	為替換算調整勘定 +8,517 その他有価証券評価差額金 +4,711																								
	非支配株主持分	92,211	74,137	+ 18,074																									
	純資産合計	1,059,904	980,940	+ 78,963																									
自己資本比率		32.4%	31.6%	+0.8 p																									

Ⅱ. 2023年度（2024年3月期）通期業績予想

連結損益比較表 (サマリー)

(単位：億円)

	2023年度 今回予想 ①	2023年度 10月予想 ②	比較増減 =①-②	増減率	主な増減要因	2022年度 通期実績 ③	比較増減 =①-③
営業収益	9,950	10,000	△50	△0.5%	分譲事業において一部の短期回収型の賃貸マンションの売却時期を見直した事等により減収を見込むものの、ホテル事業において宿泊部門の売上が堅調に推移していることやスポーツ事業において阪神タイガースが日本シリーズ制覇を遂げたこと等により増益	9,683	+267
営業利益 (事業利益)	1,027 (1,050)	997 (1,020)	+30 (+30)	+3.0% (+2.9%)		894 (894)	+133 (+156)
経常利益	1,040	1,000	+40	+4.0%		884	+156
親会社株主に帰属する 当期純利益	640	600	+40	+6.7%		470	+170
(参考) 設備投資	1,297	1,297	—			630	+667
減価償却費	627	627	—			620	+7
金融収支 (A) - (B)	△93	△93	—			△75	△18
受取利息及び配当金 (A)	14	14	—			13	+1
支払利息 (B)	107	107	—			88	+19

(注) 1. 事業利益 = 営業利益 + 海外事業投資に伴う持分法投資損益 (2022年度は海外事業に係る持分法適用会社が存在していなかったため、「事業利益 = 営業利益」)
2. 今回の連結業績予想には、2024年1月25日に公表した2024年1月31日付のオーエスの連結子会社化による影響を含めている。

セグメント別営業収益・営業利益（事業利益）

（単位：億円）

上段：営業収益 下段：営業利益 （事業利益）	2023年度 今回予想 ①	2023年度 10月予想 ②	比較増減 =①-②	主な増減要因	2022年度 通期実績 ③	比較増減 =①-③
合計	9,950	10,000	△50		9,683	+267
	1,027	997	+30		894	+133
	(1,050)	(1,020)	(+30)		(894)	(+156)
[主な内訳]						
都市交通	2,038	2,032	+6	阪急線・阪神線とも旅客数が順調に回復していることや、諸費用が減少すること等により、増収・増益	1,856	+182
	348	335	+13		224	+124
不動産	3,193	3,230	△37	分譲事業において一部の短期回収型の賃貸マンションの売却時期を見直したこと等により減収を見込むものの、ホテル事業における宿泊部門の売上や賃貸事業における各物件の賃料収入が堅調に推移していること等により増益	2,820	+373
	465	446	+19		279	+186
	(488)	(469)	(+19)		(279)	(+209)
エンタテインメント	803	798	+5	スポーツ事業において阪神タイガースが日本シリーズ制覇を遂げたこと等により増収を見込むものの、ステージ事業において第3四半期に宝塚歌劇の公演を中止したことや本年1月以降の公演日程を見直したこと等により減益	723	+80
	125	127	△2		126	△1
情報・通信	659	659	-		604	+55
	62	62	-		59	+3
旅行	2,100	2,100	-		1,914	+186
	40	39	+1		153	△113
国際輸送	980	1,000	△20	東アジアを中心に物流需要が低調に推移していること等により、減収・減益	1,633	△653
	5	10	△5		84	△79

（注）事業利益 = 営業利益 + 海外事業投資に伴う持分法投資損益（2023年度の不動産事業以外は「事業利益 = 営業利益」）

《都市交通》 鉄道運輸成績

《阪急電鉄》

	収 入				人 員			
	2023年度 通期予想	2022年度 通期実績	比較増減	増減率	2023年度 通期予想	2022年度 通期実績	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	61,017	54,908	+6,109	+11.1	287,042	272,065	+14,976	+5.5
定期	32,209	29,900	+2,309	+7.7	312,714	299,570	+13,144	+4.4
うち通勤	28,090	25,935	+2,154	+8.3	220,578	210,671	+9,906	+4.7
うち通学	4,119	3,965	+154	+3.9	92,136	88,898	+3,237	+3.6
合計	93,227	84,809	+8,418	+9.9	599,757	571,636	+28,121	+4.9

うち鉄道駅バリアフリー料金
約34億円

《阪神電気鉄道》

	収 入				人 員			
	2023年度 通期予想	2022年度 通期実績	比較増減	増減率	2023年度 通期予想	2022年度 通期実績	比較増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%	千人	千人	千人	%
定期外	22,263	19,365	+2,897	+15.0	115,062	103,696	+11,365	+11.0
定期	12,017	11,096	+921	+8.3	120,757	114,974	+5,782	+5.0
うち通勤	10,876	9,996	+879	+8.8	96,876	91,956	+4,919	+5.3
うち通学	1,141	1,099	+41	+3.8	23,881	23,017	+863	+3.8
合計	34,281	30,462	+3,818	+12.5	235,819	218,671	+17,148	+7.8

うち鉄道駅バリアフリー料金
約11億円

(注) 1. 収入は百万円未満、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示している。

2. 阪急電鉄の定期外収入・人員には、P i T a P a 区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいる。

3. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計である。

4. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、2023年度より「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、運賃に同料金を加算して収受しており、定期外収入・定期収入（通学除く）には同料金を含んでいる。

経営指標

	2022年度 実績	2023年度 10月発表予想	2023年度 2月発表予想
事業利益 (① + ②)	894億円	1,020億円	1,050億円
営業利益 (①)	894億円	997億円	1,027億円
海外事業投資に伴う持分法投資損益 (②)	-	23億円	23億円
EBITDA ※1	1,537億円	1,670億円	1,700億円
有利子負債	11,064億円	11,900億円	12,100億円
有利子負債／EBITDA倍率	7.2倍	7.1倍	7.1倍
D／Eレシオ ※2	1.2倍	1.2倍	1.3倍
親会社株主に帰属する当期純利益	470億円	600億円	640億円
ROE	5.3%	6.4%	6.8%
(参考)			
ネット有利子負債 ※3	10,635億円	11,650億円	11,850億円
ネット有利子負債／EBITDA倍率	6.9倍	7.0倍	7.0倍

※1 EBITDA = 事業利益 (営業利益 + 海外事業投資に伴う持分法投資損益) + 減価償却費 + のれん償却額

※2 D/Eレシオ = 有利子負債 / 自己資本 ※3 ネット有利子負債 = 有利子負債 - 現金及び預金

《参考》 主なセグメントの業態別営業収益・営業利益（事業利益）

（単位：億円）

	営業収益					営業利益（事業利益）				
	2023年度 今回予想 ①	2023年度 10月予想 ②	比較増減 =①-②	2022年度 通期実績 ③	比較増減 =①-③	2023年度 今回予想 ①	2023年度 10月予想 ②	比較増減 =①-②	2022年度 通期実績 ③	比較増減 =①-③
都市交通 合計	2,038	2,032	+6	1,856	+182	348	335	+13	224	+124
[業態別内訳]										
鉄道	1,480	1,474	+6	1,345	+135	374	365	+9	265	+109
自動車	433	432	+1	402	+31	21	18	+3	7	+14
流通	130	130	-	120	+10	13	12	+1	10	+3
都市交通その他	102	100	+2	89	+13	9	8	+1	6	+3
不動産 合計	3,193	3,230	△37	2,820	+373	465 (488)	446 (469)	+19 (+19)	279 (279)	+186 (+209)
[業態別内訳]										
賃貸	1,265	1,255	+10	1,262	+3	357	346	+11	324	+33
分譲等	1,563	1,617	△54	1,374	+189	152	152	-	91	+61
海外不動産	80	80	-	32	+48	34 (57)	34 (57)	- (-)	11 (11)	+23 (+46)
ホテル	618	606	+12	442	+176	36	30	+6	△48	+84
エンタテインメント 合計	803	798	+5	723	+80	125	127	△2	126	△1
[業態別内訳]										
スポーツ	483	460	+23	384	+99	103	92	+11	74	+29
ステージ	319	337	△18	339	△20	39	52	△13	68	△29

（注） 1. 各セグメントにおいて、別途、本社費・調整額があるため、業態別内訳の合算値と各セグメント数値は一致しない。

2. 不動産セグメントにおいて、2023年度から、「海外不動産事業」を独立した業態（サブセグメント）として表示することとしており、比較期である2022年度の実績数値も組み替えて表示している。

3. 事業利益 = 営業利益 + 海外事業投資に伴う持分法投資損益（2023年度の海外不動産事業以外は「事業利益 = 営業利益」）